

タクイラ市との交流経過

西暦 (和暦)	月 日	内 容
1979 (S54) 年	11月17日～26日	井川町第1回親善団 派遣
	11月19日	姉妹都市提携調印式
1980 (S55) 年	11月1日～10日	井川町第2回親善団 派遣
1981 (S56) 年	4月3日～7日	タクイラ市第1回親善団 受入
	11月1日～10日	井川町第3回親善団 派遣
1982 (S57) 年	6月30日～7月4日	タクイラ市第2回親善団 受入
	11月12日～21日	井川町第4回親善団 派遣
1986 (S61) 年	4月2日～7日	タクイラ市第3回親善団 受入
1987 (S62) 年	11月12日～21日	井川町第5回親善団 派遣 (タクイラ市で「井川公園」開所式)
1991 (H3) 年	4月2日～6日	タクイラ市第4回親善団 受入 (井川町で「交流の碑」除幕式)
1982 (H4) 年	4月5日～7日	タクイラ市第5回親善団 受入
1983 (H5) 年	7月30日～8月8日	井川町第6回親善団 派遣
1997 (H9) 年	5月21日～25日	タクイラ市第6回親善団 受入 (井川町で「交流記念樹」植樹)
1998 (H10) 年	7月30日～8月8日	井川町第7回親善団 派遣 (タクイラ市で「友好の樹」植樹)
	5月25日～28日	タクイラ市第7回親善団 受入
2000 (H12) 年	10月5日～14日	井川町第8回親善団 派遣
2002 (H14) 年	9月26日～10月5日	井川町第9回親善団 派遣
2003 (H15) 年	4月16日～19日	タクイラ市第8回親善団 受入
2004 (H16) 年	9月18日～27日	井川町第10回親善団 派遣 (姉妹都市交流 25 周年)
2005 (H17) 年	4月14日～18日	タクイラ市第9回親善団 受入
	3月1日	三好市発足
2006 (H18) 年	10月12日～19日	三好市第11回親善団 派遣
	2月17日～23日	三好市使節団 派遣 (今後の協議) (ザ・ダルズ市へも)
2007 (H19) 年	8月17日	姉妹都市協定書調印式 (再提携)
	8月23日～30日	三好市第12回親善団 派遣 (ザ・ダルズ市へも)
2008 (H20) 年	7月22日～28日	三好市第13回親善団 派遣 (ザ・ダルズ市へも)
2009 (H21) 年	11月4日～10日	三好市第14回親善団 派遣 (姉妹都市交流 30 周年)



晩さん会では、記念品の交換や、タクイラ市民にもお馴染みとなった阿波踊りを全員で踊り、今後の更なる交流を誓い合いました。



アメリカへ姉妹都市交流親善団
タクイラ市との姉妹都市提携 30 周年



中学生17名と一般参加3名を中心とした三好市姉妹都市交流親善団27名が11月4日から10日までの7日間アメリカ合衆国ワシントン州タクイラ市へ訪問してきました。タクイラ市との姉妹都市提携は旧井川町が1979年に結び、タクイラへこれまで計13回・延べ499名が派遣され、今回の訪問で14回目となります。また、今年には姉妹都市提携30周年となる記念すべき年であり、これまでの交流を通してお互いの文化を体験し、認め合いながら築いてきた友情は、両市の市民にとって大きな財産となっております。今回の交流は長年たぐさんの友情を育んできたこの交流を共に喜びあい、さらなる絆が生まれる訪問となりました。

交流親善団員はホームステイをしながら現地の学校や市の施設を見学し、タクイラ市民と交流を深め、英語に対する関心を持つたり、文化の違いを学びました。タクイラ市では独自に警察署や消防署を管轄しており、各公共施設は充実しています。学校施設も同様で、特にスポーツ関連では人工芝のフットボール場や、ジムなどの体育施設が揃っています。

晩さん会ではハガートンタクイラ市長へ俵三好市長からの親書を渡したり、三好市とタクイラ市、両市の議会・姉妹都市提携委員会がそれぞれプレゼントを交換しました。また、ショーウォルター中学校生のダンスや、フォスター高校生のギター演奏など、様々な催しを楽しみました。

City of Tukwila
タクイラ市

タクイラ市はアメリカ北西部ワシントン州の中西部、シアトル市の南、シアトルタコマ国際空港のすぐ東に位置し、人口は約1万8千人、面積は約22平方キロメートル。主要な国道5号線と405号線が交わる交通の要衝として栄えました。主要産業は、航空産業を中心とした製造業や倉庫業のほか、ホテル業やサービス業など約2千の企業で、4万5千人が働く商業都市となっています。また市では、井川公園を含む17の公園やゴルフ場の運営、地理的利点を生かした滞在型観光産業の発展に力を注いでいます。タクイラの地名は、インディアンの言葉で「ヘーゼルナッツの生える土地」を意味します。

姉妹都市交流親善団感想文

団員の方に感想文を書いていただきましたので、その一部をご紹介します。

中学生団員 篠原健吾
 とても貴重な体験になりました。まず何といても英語。英語が出来る世界が広がる。という言葉の意味を初めて理解した気がします。色々な都市を見て、日本との違いが分かりました。日本の良さ、また外国の良さを知りました。これからは、もっとたくさんの方に触れてみたいと思いました。きつとこのことは私の人生の大きな1ページになったと思います。

中学生団員 大島啓嗣
 言葉は意外と通じたように思いました。学校で習った「Will you...?」、「Do You...?」などで日常会話は大体通じました。でも向こうがペラペラと話をすると聞き取れず、適当に「NO」と「OK」で済ましてしまうことがありました。英語で会話をすることがとても楽しかったので、積極的に話しかけました。最後はバタバタしてしまい、きちんと挨拶することができないまま別れてしまったのが残念です。

中学生団員 田岡佐智世
 想像をしていたよりも外国人とコミュニケーションをとることは難しかったです。でも何日間か一緒にいるうちにだんだんと相手の言っていることの意味がわかってきました。それが一番うれしかったです。それと、一緒に行った姉妹都市交流親善団のメンバーとも

仲良くなれ、他校に友達ができたことも嬉しかったです。今回の交流は、いろんな人とコミュニケーションがとることができ良い経験になりました。

中学生団員 大西瑛輝
 僕がこの旅行で一番びっくりしたことはアメリカは自由だということです。学校では授業中に水を飲みに行ったりしていました。日本では考えられないことだと思いましたが、この自由さはいいと思いました。そして、アメリカの人はとてもフレンドリーだと思いました。これもアメリカのいいところだと思います。

中学生団員 宮北成生
 改めて文化や生活の違いを感じました。ホームステイ先で、はじめは相手が何を言っているのか聞き取れないことが何度もありました。でもホームステイ先が同じだった友人と協力して少しずつ聞き取れるようになってきました。するとだんだんコミュニケーションが取れ、自分の考えなどが言えるようになってきました。

中学生団員 榎坂依里
 英語はもちろん、家族、友達のことなどたくさん学びました。ホームステイ先の人たちはみんな仲が良く、優しくいい人でした。お父さんは日本語がとても上手で、

中学生団員 近藤拓菜
 面白い体験になったのは、英語を聞く力が少しついたことです。1日目は何を言っているのか全然わからなかったけど、2日目、3日目からは相手の言っていることが少しずつ分かるようになってきました。次にタクイラに行つて良かったことはたくさん友達が出来たことです。中学校に行った時、初めは緊張していたけれど学校の生徒たちが優しく出迎えてくれたのでとても楽になりました。この7日間は僕にとつてとてもよい体験になりました。また機会があればタクイラに行きたいと思います。

中学生団員 川人千穂
 ホームステイではいろんなところに連れて行ってもらい、シアトルにあるスペースニードルやお店、少し遠くにでかけてスキー場なども連れて行ってもらいました。海外なので分からないこともたくさんあったけど、詳しく教えてくれたのでよかったです。また行けるとしたらもっともつとろんなことを知つてもつとろんな人と交流をしていきたいと思いました。

中学生団員 川上拓海
 一番に残つたのはホームステイ先のイースター一家の人たちがいろんな所へ連れて行ってくれたり、いろんな体験をさせてくれたことです。最初は旅の疲れと緊張と

不安でいっぱいでした。そんな気持ちを感じて、1日目はゆっくりと休ませてくれたことにまず優しさを感じました。あとに残っているのは、リビングの暖炉の火でマシマロを焼いて食べたことです。家族みんなが揃ってリビングで過ごした楽しいひと時があった僕もイースター家のもう1人の家族になれた気がしてとても嬉しかったです。あつという間に時間が過ぎて帰るときはとても辛かったです。ここで過ごした思いをずっと持ち続けてもう1回タクイラに戻つてきたいと強く思いました。

一般団員 松下茜
 今回の交流で2度目の参加ですが、前より英語がわかるようになって新しい発見もありました。まず、アメリカの方はとても親しく話しかけてくれたり、周りにも気を配ることが上手だなと思いました。今回、一番心に残っているのは、学校を訪問したこと。人種、国籍に関係なくみんな仲良くしていて日本でもこんな風になれたらいいなと思いました。また機会があれば何度でもアメリカに行きたいと思える交流だったと思います。

一般団員 山口瑞貴
 行くまではすごく不安だったけど、タクイラ市で優しく出迎えてくれたことで安心しました。私のホームステイ先には中学2年生の女の

通訳をしてくれました。あといろんな所へ連れて行ってくれ、スペースニードルや大きなデパート、なんと雪を見せに山まで連れて行ってくれました。時間はあつという間に過ぎて行き、別れるのはすごく悲しかったけど、でも私はこのホームステイを一生忘れません。

中学生団員 岡崎智恵美
 初めて姉妹都市に来て、思ったより寒く、でも緑がたくさんあつてきれいだなぁと思いました。英語はあまり得意じゃないのですが不安だったけどタクイラの人たちは親切で、ゆっくりはつきり話してくれたので聞き取ることができました。ホームステイ先では同じ年の子がいてすごく話しやすかったです。来年は中学校3年生だけど行けたら行きたいと思っています。

中学生団員 滝川裕子
 アメリカにはたくさん国の人たちが集まっているので、差別があるのかと思つたらアメリカの人たちは誰にでも仲良く接していたのがすごいと思いました。日本には外国人があまりいないのに差別や偏見があります。それはとてもみづともなくてアメリカに住んでいる人たちを見習わなくてはいけないと思いました。私はホームステイ先の人と、仲良く接することができてとてもよかった、参加して正解だったと思います。

子がいて、バスケットしたり色々なことを教えてくれました。中学の見学では、アメリカの給食を体験し、自分の好きなものを頼めることに驚きました。1時間私は体育の授業をうけさせてもらい、アメリカの子ともすごく仲良くなれたし、すごく多くの子と喋れました。私は姉妹都市交流を通じて他の国の文化や集団行動の大切さなどを学ぶことができ、貴重な体験が出来本当に良かったです。

一般団員 伊丹理紗
 今回一番感じたことは「伝えることの難しさ」と「伝える気持ちの大切さ」です。アメリカでのコミュニケーションの手段は英語とジェスチャーのみです。頭の中では分かっていたはずが、実際にそれを体験するとまるで違います。会話で自分の感じたことを伝えきれませんでした。でも、すごく「分かってほしい」「伝えたい」という思いが逆に出てきて、身振りや表情で精一杯伝えようとしてきました。相手の方も必死にわかってくれようとしてくれました。伝えようとする気持ちがあれば伝えたいことの10%も伝わらないのだろうかと思いましたが、それと同時に「伝える」とは何と難しいのだろうと思いませんでした。わかってくれないなら仕方ないと思つていましたが、わかってもらおうとする気持ちが無かつたのだと気づきました。

